

知事記者会見の概要

日 時：令和3年11月10日(水) 10:00～10:47

場 所：502会議室

出席者：知事、総務部長、広報広聴推進課長

出席記者：15名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事等が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 山形県創業支援センター(仮称)の開所について

代表質問

- (1) 衆議院議員選挙の結果について
- (2) 野川元県議の辞職について

フリー質問

- (1) 代表質問に関連して
- (2) プロ野球阪神タイガースの中野拓夢選手の盗塁王獲得について
- (3) 新型コロナウイルス感染症のワクチン接種について
- (4) インバウンド回復への支援について
- (5) 発表事項に関連して
- (6) 米澤新聞の休刊について

<幹事社：河北・共同・TUY>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。県民の皆様は既にご存知かと思えますけれども、本県出身の岡澤セオン選手が、第 21 回世界ボクシング選手権大会で、見事、金賞を獲得されました。日本人初ということで、本当に快挙だと思います。誠におめでとうございます。

世界選手権という最高の舞台上、大輪の花を咲かせた岡澤セオン選手に、県民の皆様と一緒に心から祝福を申し上げます。岡澤選手が成し遂げた偉業は、県民に勇気と感動を与えてくれましたし、山形の子どもたちに夢と希望をもたらしてくれたと思います。岡澤選手の今後益々のご活躍を心から期待しております。なお、県におきましても、現在担当部局で、顕彰について検討しているところであります。

新型コロナについて申し上げます。11 月に入ってから、県内では 1 日の新規感染者数が 1 桁あるいはゼロの日が続いておりまして、大変落ち着いた状況となっております。県としては、こうした感染状況を逃すことなく、臨機応変に県内経済の回復を図るため、先月 9 日から、段階的に県外との往来や会食時の行動制限、自粛要請を緩和しているところでございます。

今週、8 日月曜日には、制限を緩和して 1 か月が経過した後も、県内で感染拡大が見られないことや全国的に感染状況が落ち着いている、またワクチンの接種率が向上していることなどを踏まえ、医療専門家のご意見も伺って、県外との往来や会食等に係る自粛要請をさらに緩和したところであります。

県外との往来につきましては、特段の制限などは設けませんので、移動の際や訪問先では、基本的な感染防止対策に努め、「うつさない」、「うつらない」行動を徹底してください。

会食につきましては、参加人数や範囲、開催時間などの制限は設けませんので、新型コロナ対策認証店などの感染対策が講じられたお店で、マスクを外した会話やカラオケは控えるなど感染防止対策を徹底して行ってください。

なお、先月 13 日に策定した「県職員の会食心得 10 か条」というのがございますが、それにつきましても、総務部で見直しを行ったところであります。後ほど、詳細について総務部長からお話をいたしますので、参考にいただければ幸いです。

全国的に新規感染者数が減少し、県外との往来や会食に係る感染リスクも低下しておりますが、新型コロナを克服し、疲弊した地域経済を 1 日も早く回復させるためには、現在の感染状況を維持し、再拡大を防いでいく必要があります。

県民の皆様には、第 6 波は必ず来るという緊張感を持って、引き続き、不織布マスクの着用やこまめな手洗い、消毒、1 つの密でも避ける「ゼロ密」、換気の励行など、基本的な感染防止対策の徹底、業種別ガイドラインの遵守の徹底をお願いいたします。

それからもう 1 点ですが、11 月 12 日から 25 日までは「女性に対する暴力をなくす運動」期間であります。本県におきましても、パープルライトアップや県庁、男女共同参画セン

ター「チェリア」等での展示、またパープルリボンの着用などにより、女性に対する暴力のない社会を目指すキャンペーンを実施いたします。

また、11月は「児童虐待防止推進月間」です。本県におきましても、社会全体で児童虐待防止の気運を高めるため、「山形県オレンジリボンキャンペーン」として、モンテディオ山形と連携したPRを実施したほか、今後、オレンジライトアップを実施いたします。

DVに悩んでいる方は、ひとりで悩まずDV相談ナビ「#8008」、「はれれば」に電話してくださるようお願いいたします。また、性犯罪・性暴力に悩んでいる方は、性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターであります「#8891」、「はやくワンストップ」に電話してくださるようお願いいたします。県民の皆様も、暴力に悩む女性に声かけをしたり、相談を促したりしてくださるようお願いいたします。

さらに、子どもと子育て家庭を見守っていただくとともに、虐待かもしれないと思ったら、ためらわずに児童相談所虐待対応ダイヤル「189」、「いちはやく」に電話してくださるようお願いいたします。記者クラブの皆様も、啓発にご協力くださるようお願いいたします。

では、私から発表が1点ございます。山形県創業支援センター（仮称）の開所について申し上げます。

県内のスタートアップを支援するため、山形駅西口の霞城セントラル2階に整備を進めてきた「山形県創業支援センター（仮称）」が、今年11月18日木曜日に開所いたします。開所に伴い、名称を「スタートアップステーション・ジョージ山形」といたします。

この名称は、昨年度から県独自に県内コワーキングスペースを常時ネットワークでつなぐ取組みを進めており、その上で、この場所が「常時、山形と日本・世界とがつながり、イノベーションの発信拠点となってほしい」との思いを込めたものであります。また、昨年度秋から、このネットワークを用いて、県が主催するオンラインビジネスセミナーにおいて、司会者として活躍する県のVチューバー「ジョージヤマガタ」さんの名前にあやかったものであります。皆様から親しまれる施設にしていきたいと思いますところではあります。

開所日の11月18日には、関係者を集め、オープニングセレモニーを開催する予定としております。また、明日11日から17日まで、プレオープンを行いますほか、報道関係者の皆様には、11月11日と12日に内覧会を行いますので、ぜひお越しいただきたいと思っております。

この「スタートアップステーション・ジョージ山形」は、一つには、スタートアップに関する総合的な相談窓口となります。二つには、県内12のコワーキングスペースと常時オンラインでつながれた施設であります。そして三つには、山形駅直結という立地を活かして、県内外の多様なビジネスパーソンの交流の場を提供いたします。

利用者相互の交流から、スタートアップや新しいビジネスアイデアが次々と生まれる場所となることを期待しております。

ぜひ県内外、多くの皆様方から「スタートアップステーション・ジョージ山形」をご利用いただきたいと思っております。よろしくようお願いいたします。私からは以上です。

☆代表質問

記者

幹事社の河北新報、奥瀬です。2点、お伺いします。

まず1点目は、先に行われた衆議院議員選挙の結果についてです。今回、吉村知事は、非自民系の候補の3人を1区から3区まで応援されたと思います。その衆議院議員選挙の結果について、今、どのように受け止めてらっしゃるかということに加えて、今後、当選した自民党の3人とは、どのように連携を進めていくかについてお伺いします。

2点目は、先に辞職された野川元県議についてです。政務活動費の不正受給疑惑を受けて、野川議員が先週の土曜日、辞職されたと思います。そのことに対する知事の所感をお聞かせください。

知事

はい、ではまず1点目について申し上げます。まずもって、去る10月31日に実施された衆議院議員選挙におきまして、本県の小選挙区で当選された3名の皆様に、お祝いを申し上げます。選挙結果についての所感ということではありますが、県民の皆様のご判断として、3名の方が選ばれたものと思っております。

当選された方々には、特に目の前の新型コロナ対策をはじめ、地域の実情に応じた産業・経済の回復や、地方創生の推進、また防災・減災対策に最優先で取り組むとともに、本県にとって大きな県政課題として取り組んできました子育て支援の充実や、福島～米沢間のトンネル整備推進、それから米価下落等を巡る農業問題などにスピード感を持って全力で対処していただくことを期待しております。

また、県選出国會議員との連携に関しましては、これまでも県政課題の解決や県勢発展のため、県選出国會議員の皆様にお力添えをいただきながら、政府への提案・要望活動等を実施しております。引き続き、今回当選された方々も含め、県選出国會議員の皆様には、県民の声、地方の声というものをしっかりと国政に届ける太いパイプ役を担っていただきたいと思っております。政府への提案・要望活動など、さまざまな場面でお力添えをいただきながら、県勢発展のため連携を密にして取り組んでいきたいと考えているところでございます。

次に、野川元県議の辞職についての所感ということでもあります。11月6日に、野川政文議員から辞職したい旨の辞職願が県議会の坂本議長に提出されて、議長から辞職が許可されたことと県議会事務局よりお聞きしました。

報道によれば、政務活動費を不正受給したということではありますが、私としては、大変驚いているところであります。今後、本人による記者会見が設定される予定と聞いておりますので、その時にご本人から内容の詳細が説明されるものと考えております。

記者

野川議員というと、今現在7期目を務められていた、かなり長く在職していた県議会議員

員だったと思うんですけども、一緒に議会運営をしていく中でどのような印象を持たれていたかということと、加えて、2016年にも山形県議会、当時の自民党の県議が、同じような疑惑を受けて辞職をしていたと思います。その点、2016年に続いて今回も再び起きてしまったということに対しても、知事はどのように捉えてらっしゃるか教えてください。

知事

はい。まず印象という質問でありますけれども、長きにわたって県議会議員をお務めになられておりましたので、地域を代表し、また県政に対してしっかりとお考えをおっしゃってくださる、私どもから見て、きちんとお仕事をされた方だったなというふうに印象を持っております。それから5年前にもということではありますが、本当にそのことがあって、にもかかわらず、またこういうことが起きてしまったということは、ただご本人の記者会見で詳細はまだわかりませんので、そこまでのコメントはちょっと、それまで待っていたきたいかなと思っています。

☆フリー質問

記者

共同通信、阪口です。今の野川元県議の件ですけども、先週、疑惑が明らかになって、辞職までされたということでしたけれども、今週、水曜日のこの段になってもまだ記者会見がされていないというか、知事も同じように選挙で選ばれた公人という立場であると思っておりますけれども、説明責任についてどのように、ここまで記者会見が遅くなっている事実について、知事はどのようにお考えでしょうか。

知事

まだ行われていないということについては、どういう事情があるのかということ承知していませんので、そのことについての感想はちょっと申し上げられないと思っています。ただ、議長さんのおっしゃったこととして、なるべく早くということをおっしゃっておられたと承知しておりますので、どういった事情があるのか、具体的な細かいところまでわかりませんので、一概に遅すぎるとか、今、私は申し上げられないかなと思っています。

記者

ということは知事としては、このタイミングまでまだ記者会見がないというのは理解できるという意味でいいんですか。

知事

いや、理解できるんじゃないかと、何か事情があたりになるだろうと思っています。法律の専門家の方と、おそらく言うてはなんですけれども、どういったふうに、でも推測を言うわけにいかないのか、ちょっと今言うのは差し控えたいかなと思っています。

記者

もう 1 点、衆院選についてなんですけれども。これまで知事選からの流れで、自民党とは緊張関係があったかと思うんですけれども、今回衆院選が終わって、多少融和のムードになるのかなというのも思うんですけれども、知事選で知事を支えられた方の多くが野党系だったということで、野党系の知事だというふうに言われることも少なくないと思うんですけれども、その中で、遠藤さんなんかは、知事選が終わった後に県内の保守勢力を統一したいみたいなことをおっしゃっているようなんですけれども、知事としてはそういうお考え、まず自分の見られ方という点で、どう思ってもらっしゃるのか、それと県内の保守勢力の合同について、どのように思ってもらっしゃるのか、伺えますでしょうか。

知事

知事選挙の時の内容といたしますか、私はずっと県民党を標榜してきた、というのが一つあります。そういつて標榜してきた、あるいは県政に邁進してきた私に対して、先の知事選で投票して下さった方々が、本当にいろんな方々がいらっしやって、その保守の方々も一定程度の方が私に投票して下さったというデータがありますので、私としてはやはり、与党・野党という括りではなく、県民党という目で見たいなというのが、思いであります。正直にそう思っております。ただ本当に選挙ってというのが、ルールに則った戦いでもありまして、その都度その都度、悩みながら私も行動するわけなのでありますけれども、やはり融和の方向にお互いに持っていければと思っております。

記者

話題ちょっと変わるんですけども、県議会のほうでもちょっと木村忠三議員なんかが、議運（補足：「議会運営委員会」）のほうでおっしゃってると思うんですが、阪神タイガースの中野拓夢選手が盗塁王を獲得されたと思うんですけれども、岡澤セオン選手についての祝意があったと思うんですが、何か知事としてコメントがあれば、また県からの賞みたいなことを考えてもらっしゃることがあれば教えてください。

知事

中野選手についても、私は本当に素晴らしい快挙だなと思っているところです。ただ、担当のほうからは、その話ちょっと来ておりませんので、この後聞いてみたいと思います。

記者

山形放送の渡部です。野川元県議の件についてなんですけれども、先ほど、記者会見を見るまでは、ということをおっしゃいましたけれども、野川さん本人が、坂本議長に対して、概ね報道は事実であるとおっしゃっていて、県民の税金が不正に使用されたという事実というのはあると思うんですけれども、その点についてはあらためて県民の税金が使わ

れたという点については、どのように思われますでしょうか。

知事

そうですね、本当に議長さんが記者会見をされて、その中でだいたい概ねそういう内容であるとおっしゃったということを私も報道で承知をしております。それが本当であれば、大変残念だと思いますし、またこの政務活動費というのが、条例上、議長に調査権というのがあります。第一義的には議会の対応と思っておりますので、5年前もそうであったんですけれども、まずは議会の対応を見守りたいと思っております。

記者

あともう1点、衆院選についてですけれども、先ほど当選した3人の方への期待というのはおっしゃっていたんですけれども、支援した方が3人も敗れたということについては、ご自身の支援の仕方も含めてどのように思われているかということをお伺いできればと思います。

知事

選挙の恩は選挙で返すというのが、常道と言いますか、そういったこともありまして、私自身の考え方も恩返しということでずっとやってきました。私を応援してくださった方々でありますので、今回の結果は残念でありますけれども、それは県民の皆さんのご判断ということでありますので、やはり皆さまそれぞれ素晴らしい方々でありますので、今後どういう方向に行くかはそれぞれお考えになるかと思っておりますけれども、やはりそれぞれのお立場でしっかりと山形県の発展、また地域の皆さんの幸せのために、またご活躍をそれぞれの皆さんなりにご活躍をいただきたいなと思っております。

記者

3人への支援というと、知事本人が事務所とか陣営の方に激励に1回ずつ訪れたというのがありましたけれども、その支援の仕方というのは、今振り返ってみて、もっとこうすれば良かったとか、お忙しい中では限界だったのかとか、何か思うところありますでしょうか。

知事

そうですね。いつも悩むところでありますけれども、熟慮してそして後援会とも相談しながら、各1区、2区、3区、それぞれに1回ずつ事務所訪問という形で応援をさせていただきました。それに対して大変喜んでくださった方もあれば、足りないというふうにも思った方もおられるかと思っておりますけれども、いろいろ考えた上での行動であったということをご理解をいただきたいと思っております。

記者

ありがとうございます。

記者

山形新聞、田中です。衆議院選挙と野川前県議のことでそれぞれお聞きしたいと思います。まず衆議院選挙、今も知事が支援表明された3人の方への言及がありましたけれども、あらためまして3人の方の今回の出馬の経緯の中で、知事から応援を受けた、背中を押されたという方も中にはいらっしゃったかと思います。そういった知事の今回の衆議院選挙への関わり方ということをお聞きしたいので教えていただければと思います。

知事

関わり方ですか。

記者

知事から背中を押されて自分が出馬したという方も中にはいらっしゃったと私は承知をしておるのですが、知事自身が候補者擁立の過程から関わりがあったということはないのかあったのか、そこも含めてちょっと教えていただければ。

知事

はい。私自身が擁立ということに関わったことはありません。ただ、応援はいたしました、という関係でございます。

記者

ありがとうございます。その上で、当選した3人、自民党の前職が再選したわけですが、これから知事として、とりわけ衆議院議員との関わり方、これから改めていくことであるとか、さらに会話を重ねていかなければいけないであるとか、どのようなお考えでこれから関係を作っていこうと思われているのでしょうか。

知事

はい。県民の皆さんのご判断で当選をされました3人の方。3人とも前職でありますけれども、やはりしっかりと県のために県民のために、また国家のためにお働きいただく役割があると思っています。そういう中で私として、やはり対話といったことを模索しながら、できる限り連携をして県の発展、県民の幸せのために県政を前に進めたいと思っています。コロナ対策をはじめ、本当に県政課題たくさんありますので、3人の皆さんのお力添えもお願いしながら、しっかりと県政を前に進めていきたいと思っています。

記者

ありがとうございます。続いて、野川前県議のことで、2016年も知事は議会の判断をまずは見てということで、議会として当時議長であられた野川さんが議会としての発言は見

送られて、その議会の考えを尊重なさるということに、5年前はなりました。

今回、知事、先ほど議会が第一義ということをおっしゃいましたけれども、これは県として例えば本人が概ね認めているということであれば、不正な公金からの支出があるという疑念があるという状況が今も1週間くらい続いています。このことに関して例えば県として、いわゆる被害者たる県として、例えば議会に調査権限を行使するように促すであるとか、被害をそのまま放置している、本人の説明責任が未だにないという、これはちょっと看過できないのではないかなと思うのですけれども、県としては何か議会の考えを注視するだけではなくもう少し踏み込んで、その被害回復であるとか、きちんといわゆる倫理的にも政治的にも責任をとるような形を促していくとか、何かそういったアクションというのは考えられないのでしょうか。

知事

そうですね。第一義的には議会の対応と考えています、ということを繰り返し申し上げます。今、記者さんのおっしゃった、返還とかそういったこともちょっとまだ明らかではありませんので、やはり、そういうことが明らかになってからと言いますか、それからしっかりと検討したいと思います。やはり、議会と執行部というのは県政の両輪と言われておりますので、お互いに独立を尊重すると言いますか、自主性を重んじる、議会を尊重しなければならないという思いもありますので、今の時点で私からこうしたらいいんじゃないか、ああしたらいいんじゃないか、というようなことはちょっと申し上げないで、まず議長もいらっしゃることでありますし、議会で議論するというふうにもおっしゃっておられると承知をしていますので、やはり議会の対応を見守りたいと思っています。

記者

ありがとうございます。最後に、先ほども同じような質問がありましたけれども、発覚から、ここに至ってまだご本人が説明をすと言いながらまだその日程も未定だと。この流れ、1週間ほど経っている中で、知事ご自身としては、ご本人の説明責任の果たし方として、未だになされていないということに関してはどのようにお考えになっていますか。

知事

そうですね。私としましては、できるだけ早く説明をしていただければと思っております。それに尽きますね。

記者

NHKの桐山と申します。よろしく申し上げます。まず1点目お伺いしたいのは、ワクチン接種についての質問です。先週、医療従事者と高齢者の3回目のワクチン接種の時期の目処をお示しになったかと思うのですけれども、それ以外の一般の人について、現状、県としてはどのように接種のスケジュールをお考えでしょうか。

知事

考えているかということですが、まだ情報が、私のところにも来ていない状況です。できる限り速やかに情報提供しておりますので、担当部局で申し上げたように、12月から医療従事者から始まるということで。1月からは高齢者という、そういった順かと思っておりますけれども、その後の具体的なことまではちょっと情報がないと思っています。ちょっと担当から答えてもらいます。

健康福祉部次長

健康福祉部次長の大場です。現段階における政府のほうからお聞きしている考え方としては、2回目から8か月後に、全員を想定して準備するよというところで接種体制は基本的に市町村の順次接種の枠組みを活用していくけれども、最初に医療従事者、あと65歳以上の方、いわゆる1回目2回目の接種が早かった方ということで検討中ということで聞いております。最初に医療従事者、そして65歳以上の方ということで始まっていくものと思っておりますけれども、現段階で、2回目から8か月経った方というところを想定して市町村のほうでは準備を始めていくということで考えていると思っております。以上でございます。

記者

わかりました。もう1点なのですけれども、先週、国のほうで外国人の受け入れの再開があったかと思うのですけれども、ビジネスを目的とする短期滞在、あるいは留学生や技能実習生などの長期滞在者が、申請して審査を受けると入国が許可されるということだったんですけど、その一方でコロナ前は山形県内を訪れた外国人観光客の方、過去最大だったかと思うのですけれども、そちらについてまだ観光目的の入国は制限されたままになっています。インバウンドの恩恵というのも山形県内、かなりコロナ前はあったかと思うのですけれども、この国の判断についてお考えをまずお聞かせ願えますでしょうか。

知事

はい。技能実習生ということに関しては、本当にそれぞれの現場で、どうしても必要だという状況があつてのご判断かなと感じております。それとまた比較してインバウンドというお話でありますけれども、早く再開してほしいという気持ちはあるんですけどね、観光業界もそうだろうし、私自身もそうでありますけれども、相手あつてのことです。同じ相手あつてのことではありますけれども、ビジネスの場合は本当に目的地が決まっていると言いますか、働く場所でしっかりと衛生管理、健康管理もできるのかなと思いますけれども、インバウンドとなるとね、またかなりの人数になって、水際対策とかそれから各地でのいろいろな感染対策といったこともね、また相手国の感染状況ということもあるかと思われまますので、それでちょっとビジネスよりは遅れているのかなというのが私の所感です。でも、本当に日本はもう落ち着いておりますし、感染状況が落ち着いている国か

ら再開していただければなと思っています。

記者

インバウンド、今おっしゃったように、今はちょっと難しい、経済のためにも早く再開してほしいというところ、所感いただいたんですけども、コロナ前、かなり景気が良かったインバウンドをビジネスチャンスとして投資した観光業者の方とかも、少なからず県内にもいらっしゃるのかなと思うんですけども、そこが再開しないということは、なかなかそういったところは、投資をした業者さんたちはなかなか難しい状況が続いていくかと思うんですけども、そういった業者に対する支援についての考えをあらためてお聞かせ願えますでしょうか。

知事

そうですね。インバウンド向けの投資をされたところもあるかと思いますが、業界の皆さまからお話を、現状というものを伺いしながら、こういった支援ができるのか検討していきたいと思っています。

記者

今の段階で具体的にこれをする、これをしたいというのはまだ決まっていないという認識でよろしいでしょうか。

知事

そうですね。インバウンド専用ということに関しては、まだどういうことができるのかちょっとわかりませんので、やはり現状をお聞きして対策を検討するということが大事かなと思っています。

記者

観光業全般、観光・飲食全般についての支援は現状もいろいろされているかと思うのですが。

知事

そうですね、はい。

記者

まずは今、やっている様子を見ながらということですかね。

知事

本当に、業界との対話と言いますか、しっかりと現状をお聞きしながら、本当に一緒になって走りながら支援するというのが、やはり大事なかなと思っています。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

時事通信の村上と申します。よろしく申し上げます。先ほど発表のありました、「スタートアップステーション・ジョージ山形」についてお伺いします。発表がざっくりしていたものなので、あらためてお伺いしたいのですけれども、機能として「スタートアップ窓口」とあるのですけれども、これは具体的にどのように誰が誰を対象にしてスタートアップの相談をするのか、もう一つ県内と常時つながれた「コワーキングスペース」ということなのですけれども、これは具体的にどうされるのか。あと、多様な人材の交流の場ということなのですけれども、何かそういった交流を促すようなことを企画されているのか、何か仕掛けなどがあるのかということをお伺いさせていただければと思います。あと、知事としてあらためて今回開所されることで県内経済に対して期待することなどがあればお伺いしたいと思います。

知事

この「スタートアップステーション」でありますけれども、日本語で言えば、起業・創業になるかと思えます。山形県の強みはやはり老舗が多いと言いますか、京都の次くらいに百年企業が率として多いということがありますが、起業・創業、本当にそこは弱いなと思って、ずっと対策を考えてきました。非常にロケーションのいい所に「スタートアップステーション」というものを作って、そこでやはり県内の起業・創業のメッカになっている、それぞれのコワーキングスペース、12か所あると聞いているのですけれども、そこ常時繋がって、総合的なアドバイスをしたり、また情報交換をしたりして、相互作用と言いますかね、さらに多くの効果を生み出せばいいなと思っていますところでは。

企業振興公社というのが同じ霞城セントラル内にありまして、そこでそういう場所にもなったと思っていますけれども、ワンストップでそこでいろいろなことを相談できるという重要な場所になるかと思っています。駅と直結しているというのがまた一つのみそでありまして、非常に来やすい、県外からも来やすい、県内でも集まりやすいという、そういうロケーションと言いますかね、場所を選んだわけでありまして。

ぜひ、県外からも大いに、山形でどういうことができるのかといったことを気軽にここに来て、あるいはここと繋がって、山形への移住であったり、山形での起業、そういったことを考えていただければなと思っています。あと、非常に細かい具体的なことについては、担当から後で答えてもらいたいと思います。

記者

朝日新聞の鷲田と申します。ちょっと話変わります。先月、県政記者クラブの加盟社で

もあった、米澤新聞が休刊しました。まずそれへのお受け止めをお願いいたします。

知事

そうですね、米沢という、本当に歴史のある場所と言いますか、そういう地域で非常に地域に根づいた取材をされて、発刊を続けてこられたのかなと思っていますので、休刊されたのは本当に残念だなというふうに思っております。

記者

全国的にも世界的にも、この報道機関というのが、デジタル化に伴って経営が苦しくなるという状況はあります。一方で、報道機関というのは知事にとって、いつも融和的であるかとか、時には知事の県政運営にとっては正直煩わしいところもあるかもしれないですけども、あらためて知事にとってこの報道機関というのはどういった存在なのか、また、県政・地方における報道機関の役割というのはどんなものだとお考えになりますか。

知事

そうですね、本当に突然のご質問でありますけれども。私は本当に報道機関というのはね、私は県という立場におりますので、県の立場から見ると県政というものをしっかりと県民の皆さまにお伝えしていただける、そういうものすごく大事な役どころを、皆様が担ってくださっていると思っています。県としての立場としてはそういうことに尽きると思っています。あと、知事になる前の一県民であった時には、非常に世の中の動きがわかると言いますか、やはり新聞やテレビを通じて、本当に自分の家庭以外の世の中の動きというものが、地域もそうだし、全国また世界の動きといったこともやはり、活字や映像を通して得ておりましたので、報道は非常に何というか、生活の一部になっているのかなと思っています。視野を広める、また人格形成にも非常に重要なものだと思いますし、あと社会を良くするという意味でね、やはり情報をしっかりと得て、それを取捨選択するという力もつけていかなければいけない、それは教育の力だと思っていますけれども、いろんな意味でやはり人間の社会生活を営む上で重要な役割を担っているのかなと思っています。ちなみに中学時代、私は、新聞記者になりたいと思っておりました。

記者

ありがとうございます。